

DGAKI-JSA 2019 報告④

千葉大学大学院医学研究院小児病能学
中野泰至

2019年11月末に行われたドイツアレルギー学会との joint meeting に参加させていただく機会を頂きました。ちょうどクリスマスマーケットの始まった週で寒いながらも街中が賑わっている時期でした。ドイツアレルギー学会側の代表者が私の留学先であったマールブルグ大学の Harald Renz 教授だったため、このような貴重な機会を頂いたものと思います。また、マールブルグ大学のかつての同僚とも久しぶりに再会して日本で行っている研究についてディスカッションできたのも大変良かったです。自分は prevention/pediatric の部分を担当させていただき、千葉大学で行っている出生コホート研究のデータ及び現在進行中のアレルギー発症予防を目的とした乳児期早期からのビタミンDの介入研究について発表させていただきました。ドイツと日本では食文化、生活様式、気候など様々な点で異なる点が多く、アレルギー疾患のリスク因子も異なる可能性が高く、リスク因子の比較などができればいいなと思っております。また、ミーティング自体は普通の学会とは異なり少人数での会議で発表毎に活発なディスカッションがあり、時間オーバーするくらい盛り上がり大変有意義な会議となりました。EAACIなどに参加してもそこまで他国の方たちと話すことはないので、このような少人数でのミーティングでは話す機会が増えるので良かったです。また、ミーティングのあったホテルもフランクフルト郊外の静かな場所でドイツアレルギー学会側のおもてなしが素晴らしく、滞在中はみんな楽しく過ごすことができたかと思えます。ヨーロッパと日本は遠いですが、今後もこのようなドイツの研究者の方たちとのディスカッションができる場があればいいなと個人的には思いました。最後になりましたが、このような貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。


